Japanese Journal of Applied Psychology
2010, Vol. 35, No. 2, 119-128

2009年度理事会議事録

日　時：2009年9月11日　午後4時～午後6時
場　所：九州大学医学部保健学科　本館1階大会議室
出席者：森下高治理事長，藤田主一副理事長，井上孝代，浮谷秀一，臼井伸之介，内山伊知郎，岡村一成，荻野七重，加藤博己，川本利恵子，木村友昭，久我隆一，大坊郁夫，田中真介，田中佑子，谷口泰富，田之内厚三，玉井　寛，所　正文，内藤哲雄，蜂谷　真，深澤伸幸，藤森立男，細江達郎，松下由美子，松田浩平，向井希宏，森脇保彦，蓮花一己（以上理事29名）高橋良博（監事1名）
名誉会員：秋山俊夫，長塚康弘，山岡　淳
事 務 局：浮谷秀一事務局長

1. 理事長挨拶
- 56回大会を鹿児島大学で開催して以来，九州地区での開催と紹介し，お世話をいただいた川本大会委員長に感謝の言葉を述べた。
- 本学会の活性化のために学会活性化プロジェクトチームを立ち上げ，チーム長に連花先生をお願いした。
- 名誉会員の金子秀彬先生と黒田正典先生が逝去された。

2. 第76回大会委員長挨拶（川本大会委員長）
- 九州の地までおいでいただいたことへのお礼を述べた。

3. 報告事項
(1) 事業報告
1) 会員の異動および会費納入状況
（浮谷事務局長）
- 2008年度末（2009年3月31日）の会員数は1148名（正会員1061名，学生会員3名，名誉会員40名，終身会員39名，賛助会員5名）であり，前年度末と比較して2名減少した。
- 2009年9月9日現在の2009年度年会費の納入率63.0%，過年度については約10%が未納である。

2) 委員会報告
①機関誌編集委員会（所委員長）
- 6つの審査部門に分けて編集作業を進めている。
第1部門（原理・認知・感情）の正責任者は浮谷秀一（東京富士大学），副責任者は荻野七重（白梅学園大学），第2部門（教育・発達・人格）の正責任者は田中真介（京都大学），副責任者は細江達郎（岩手県立大学），第3部門（臨床・福祉・相談）の正責任者は井上孝代（明治学院大学），副責任者は玉井　寛（福島学院大学），第4部門（健康・スポーツ・看護・医療）の正責任者は川本利恵子（九州大学），副責任者は松下由美子（山梨県立大学），第5部門（犯罪・社会・文化）の正責任者は大坊郁夫（大阪大学），副責任者は内藤哲雄（信州大学），第6部門（産業・交通・災害）の正責任者は向井希宏（中京大学），副責任者は深澤伸幸（八戸大学）。
- 各部門の審査状況について説明があった。
- 投稿倫理の問題について説明があった。
- 35巻1号の掲載内容について説明があった。
- 今大会期間中に開設する論文投稿にかかわる「相談ブース」について説明があった。

②企画委員会（田之内委員長）
- 委員は，大坊郁夫（大阪大学），齊藤　勇（立正大学），田中佑子（諏訪東京理科大学），松田浩平（文京学院大学），木村友昭（MOA健康科学センター）。
- 第75回大会での研修会は，林　潔先生（研修会A）と松下由美子先生（研修会B）であった。
- 昨年度の公開シンポジウムは，平成20年12月14日に信州大学人文学部で，「地域の高齢化と再活性化」というテーマで行った。
- 第76回大会での研修会は，大村政男先生（研修会A）と田之内厚三先生（研修会B）である。
- 今年度の公開シンポジウムは，平成21年12月5日に駒澤大学で，「目撃証言・供述はどこまで信用できるか？―裁判員制度と応用心理学―」というテーマで行われる。

③広報委員会（藤森委員長）
- 学会のホームページをリニューアルした。
- ニュースレターNo. 21を5月に発行した。

・ニュースレターNo. 22を11月に発行予定である。
・来年度から新広報誌「応用心理学のクロスロード（仮称）」の発行を予定している。

④「応用心理士」認定審査委員会（玉井委員長）
・委員は，森脇保彦（国士舘大学），桐生正幸（関西国際大学），深澤伸幸（八戸大学），浮谷秀一（東京富士大学）。
・2008年度後期の認定者は2名であった。
・2009年度前期の認定者は3名であった。
・今年度は，申請資料一式を作成して会員に配布して申請者の増加を目指す。

⑤国際交流委員会（内藤委員長）
・委員は，荒木穂積（立命館大学），坂元　章（お茶の水女子大学），田中真介（京都大学），所正文（国士舘大学），蓮花一己（帝塚山大学）。
・2010年7月11日～16日までメルボルン（オーストラリア）で第27回国際応用心理学会大会が開催される。
・第27回国際応用心理学会大会において本学会はシンポジウムを予定している。

⑥若手研究者支援委員会（蓮花委員長）
・委員は，大渕憲一（東北大学），臼井伸之介（大阪大学），松浦常夫（実践女子大学），加藤　司（東洋大学）。
・第75回大会では，大会発表費の補助を院生の責任発表者40名のうち37名，自主ワークショップの院生企画責任者への支援は1件，学部生・院生の非会員への大会当日参加・特別優遇措置4件であった。
・支援活動の浸透と支援の在り方について検討している。

3)　学会活性化プロジェクトチーム
（蓮花チーム長）
・各分野から適切な委員を選出して，短期間で報告ができるように進める。

(2)　2008年度第75回大会報告
（藤森大会委員長）
・第75回大会決算報告書に基づいて報告があった。

(3)　日本心理学諸学会連合報告　（谷口常任理事）
1)　2008年度第2回心理学諸学会連合理事会の報告を垣本前常任理事が行った。
・第1回心理学検定が実施された。第2回は2009年8月23日（日）に全国8会場で実施予定。
・心理学資格について「2資格1法案」として提出することが承認された
・心理学検定協力委員に藤田主一氏が決まった。
2)　2009年度第1回理事会の報告を谷口常任理事が行った。
・役員選挙が行われて新しい役員が決まった。理事長に市川伸一氏，副理事長に織田正美氏と野島和彦氏など。
・日本マイクロカウンセリング学会の入会を承認した。
・2008年度事務局収支決算案および2009年度予算案を承認した。
・心理学資格は「2資格1法案」から「1資格1法案」の実現を目指す提案が承認された。

(4)　役員選挙結果について
（浮谷選挙管理委員長）
・資料に沿って結果が報告され，承認された。理事長に森下高治氏，副理事長に藤田主一氏など

4.　審議事項

(1)　2008年度決算に関する件　（浮谷事務局長）
・資料に基づき決算書を説明した。一部費目について修正したほうが適切ではないかとの指摘があり，修正のうえ承認された。

(2)　2009年度予算に関する件　（浮谷事務局長）
・資料に基づき予算案を説明し，原案どおり承認された。

(3)　2011年度第78回大会委員長（大会当番機関）に関する件　（森下理事長）
・第78回大会を内藤哲雄大会委員長でという案を承認した。開催場所は信州大学（松本市）の予定。

5.　2010年度　第77回大会委員長挨拶
（田中大会委員長）
・来年度の大会の日程を2010年9月11日（土）と12日（日）にするとの説明があった。また，いろいろな企画を練っているので楽しみにしてほしいというお話もあった。

2009年度総会議事録

日　時：2009年9月12日11時40分～12時40分
場　所：九州大学医学部基礎研究A棟102教室
進　行：浮谷事務局長

1. 理事長挨拶
   - 56回大会を鹿児島大学で開催して以来，九州地区での開催と紹介し，お世話をいただいた川本大会委員長に感謝の言葉を述べた。
   - 本学会の活性化のために学会活性化プロジェクトチームを立ち上げ，チーム長に連花先生をお願いした。
   - 名誉会員の金子秀彬先生と黒田正典先生が逝去された。
2. 第76回大会委員長挨拶（川本大会委員長）
   - 現在のところ予約と当日を合わせて約250名の参加者であるとの報告があった。
   - 口頭発表とポスター発表で約120件である。
3. 議長選出
   - 恒例により，川本大会委員長を選出した。
4. 報告事項

(1) 事業報告

1) 会員の異動および会費納入状況

（浮谷事務局長）

- 資料に基づき2008年度末の会員数および今までの会費納入状況などを説明した。

2) 委員会報告

①機関誌編集委員会（所委員長）

- 6つの審査部門に分けて編集作業を進めている。第1部門（原理・認知・感情）の正責任者は浮谷秀一（東京富士大学），副責任者は荻野七重（白梅学園大学），第2部門（教育・発達・人格）の正責任者は田中真介（京都大学），副責任者は細江達郎（岩手県立大学），第3部門（臨床・福祉・相談）の正責任者は井上孝代（明治学院大学），副責任者は玉井　寛（福島学院大学），第4部門（健康・スポーツ・看護・医療）の正責任者は川本利恵子（九州大学），副責任者は松下由美子（山梨県立大学），第5部門（犯罪・社会・文化）の正責任者は大坊郁夫（大阪大学），副責任者は内藤哲雄（信州大学），第6部門（産業・交通・災害）の正責任者は向井希宏（中京大学），副責任者は深澤伸幸（八戸大学）
- 各部門の審査状況について説明があった。
- 投稿倫理の問題について説明があった。
- 35巻1号の掲載内容について説明があった。
- 今大会期間中に開設する論文投稿にかかわる「相談ブース」について説明があった。

②企画委員会（田之内委員長）

- 委員は，大坊郁夫（大阪大学），齊藤　勇（立正大学），田中佑子（諏訪東京理科大学），松田浩平（文京学院大学），木村友昭（MOA健康科学センター）。
- 第75回大会での研修会は，林　潔先生（研修会A）と松下由美子先生（研修会B）であった。
- 昨年度の公開シンポジウムは，平成20年12月14日に信州大学人文学部で，「地域の高齢化と再活性化」というテーマで行った。
- 第76回大会での研修会は，大村政男先生（研修会A）と田之内厚三先生（研修会B）である。
- 今年度の公開シンポジウムは，平成21年12月5日に駒澤大学で，「目撃証言・供述はどこまで信用できるか？―裁判員制度と応用心理学―」というテーマで行われる。

③広報委員会（藤森委員長）

- 学会のホームページをリニューアルした。
- ニュースレターNo. 21を5月に発行した。
- ニュースレターNo. 22は11月に発行予定である。
- 来年度から新広報誌「応用心理学のクロスロード（仮称）」の発行を予定している。

④「応用心理士」認定審査委員会（玉井委員長）

- 委員は，森脇保彦（国士舘大学），桐生正幸（関西国際大学），深澤伸幸（八戸大学），浮谷秀一（東京富士大学）。
- 2008年度後期の認定者は2名であった。
- 2009年度前期の認定者は3名であった。
- 今年度は，申請資料一式を作成して会員に配布することで申請者の増加を目指す。

⑤国際交流委員会（内藤委員長）

- 委員は，荒木穂積（立命館大学），坂元　章（お茶の水女子大学），田中真介（京都大学），所正文（国士舘大学），蓮花一己（帝塚山大学）
- 2010年7月11日～16日までメルボルン

（オーストラリア）で第27回国際応用心理学会大会が開催される。

・第27回国際応用心理学会大会において当学会はシンポジウムを予定している。

⑥若手研究者支援委員会（蓮花委員長）

・委員は，大渕憲一（東北大学），臼井伸之介（大阪大学），松浦常夫（実践女子大学），加藤　司（東洋大学）

・第75回大会では，大会発表費の補助を院生の責任発表者40名のうち37名，自主ワークショップの院生企画責任者への支援は1件，学部生・院生の非会員への大会当日参加・特別優遇措置4件であった。

・支援活動の浸透と支援の在り方について検討している。

(2)　2008年度　第75回大会報告

（藤森大会委員長）

・第75回大会決算報告書に基づいて報告があった。

(3)　日本心理学諸学会連合報告

（谷口担当常任理事）

・第2回心理学検定は2009年8月23日（日）に全国8会場で実施された。

・役員選挙が行われて新しい役員が決まった。理事長に市川伸一氏，副理事長に織田正美氏と野島和彦氏など

・2008年度事務局収支決算案および2009年度予算案を承認した。

・心理学資格は「2資格1法案」から「1資格1法案」の実現を目指す提案が承認された。

(4)　役員選挙結果について

（浮谷選挙管理委員長）

・資料に沿って結果が報告され，承認された。

・理事長に森下高治氏，副理事長に藤田主一氏など

5.　審議事項

(1)　2008年度決算に関する件（浮谷事務局長）

・資料に基づき決算書を説明し，原案どおり承認された。

(2)　2009年度予算に関する件

・資料に基づき予算案を説明し，原案どおり承認された。

(3)　2011年度　第78回大会委員長（大会当番機関）に関する件（森下理事長）

・第78回大会を内藤哲雄大会委員長でという案が承認された。開催場所は信州大学（松本市）の予定。

6.　議長解任

7.　2010年度　第77回大会委員長挨拶

（田中大会委員長）

・来年度の大会の日程を2010年9月11日（土）と12日（日）にし，開催場所は京都大学にするとの説明があった。

・いろいろな企画を練っているので楽しみにしてほしいというお話もあった。

第4回常任理事会議事録

日　時：2009年9月13日（日）　12:00〜13:10

場　所：九州大学医学部保健学科　本館1階大会議室

出席者：森下高治理事長，藤田主一副理事長，井上孝代，浮谷秀一，川本利恵子，大坊郁夫，田中真介，谷口泰富，田之内厚三，玉井寛，所　正文，内藤哲雄，藤森立男，向井希宏，（以上14名）

委任状：蓮花一己

事務局：浮谷秀一事務局長，佐藤恵美幹事

I.　報告事項

1.　理事長より

2.　各委員会報告

(1)　機関誌編集委員会（所委員長）

・機関誌編集委員会を大会前日の9月10日に開催した。

・黒田正典名誉会員の追悼文を機関誌に掲載する予定である。

(2)　企画委員会（田之内委員長）

・理事会での報告のとおり。

(3)　広報委員会（藤森委員長）

・新しい広報誌に取り組んでいる。国際文献印刷社では対応できないということで，福村出版の見積によると1号あたり50万円との回答を得た。この金額について，詳細を今後煮詰めていくことにする。

(4)「応用心理士」認定審査委員会（玉井委員長）

・新しいパンフレットを作成する準備をしてい

る。「応用心理士」を増やしていく方策を今後検討していく予定である。

(5) 国際交流委員会（内藤委員長）

・メルボルンで開かれる国際応用心理学会大会では，高齢化への対処に関するシンポジウムを予定しており，発表申込の要約の送信も済んでいる。参加者には，司会に外国人，指定討論者に外国大学勤務の日本人が含まれているが，申込直前に公表された「2カ国以上の話題提供者を含まれなければならない」という条件が厳格に適用される場合には受理されない可能性もある。

3. 日本心理学諸学会連合について

（谷口担当常任理事）

・理事会での報告のとおりである。12月末に連合の理事会が予定されている。

4. 2009年度第76回大会について

（川本大会委員長）

・現在のところ，当日参加65名が加わり，300名を超す参加者である。

・学会開催の準備のなかで，国際文献印刷社とのやりとりで生じたいくつかのトラブルについて説明があった。

5. 2010年度第77回大会について

（田中大会委員長）

・第77回大会は，2010年9月11（土），12日（日）に，京都大学にて開催する予定である。

II. 審議事項

1. 論文投稿者A氏に関する件（所委員長）

・藤田副理事長よりこれまでの経過の説明があった。

6月19日の第2回常任理事会では，議論の結果，この問題について現編集委員会で対応することが決定した。また，A氏からの回答結果によっては，その後の対応を常任理事会で扱うということも確認した。その後の対応について理事長を含めて編集委員会で検討した結果，A氏への問い合わせを藤田副理事長（前編集委員長）が行うことになった。

8月2日の第3回常任理事会では，藤田副理事長から投稿者A氏に文書を送付し，所属長の自署がある「データ使用許可書」を受け取り，所属長に直接電話し本許可書の発行を確認したことが報告された。今後投稿者に対し必要に応じて「データ使用許可書」の提出を求めることになった。

この報告がなされた後に，これらに関して質疑が行われた。

2. 新入会員審査および会員異動に関する件

・下記の新入会員9名が承認された。

古城和敬　折原茂樹　友野伸一
中井由可子　福島安子　榊原佐和子
松田与理子　田辺　稔　伊藤令枝

・7月29日現在の会員数は，総会での報告のとおりである（合計1,222名）。

・長期会費未納者への対応を今年10月末に行い，その後会員名簿を作成する。

3. その他

・本学会が日本学術会議の協力学術研究団体に登録されていなかったために，会員が不利益を被っているとの報告があり，事務局として即刻対応していくことになった。

※次回の常任理事会は，駒澤大学にて2009年12月5日の公開シンポジウム後の予定である。

第5回常任理事会議事録

日　時：2009年12月5日（土）午後4時40分～午後6時00分

場　所：駒澤大学　大学会館3階会議室

出席者：森下高治理事長，藤田主一副理事長
井上孝代，浮谷秀一，川本利恵子，大坊郁夫，田中真介，谷口泰富，田之内厚三，玉井　寛，内藤哲雄，藤森立男，向井希宏，蓮花一己（以上15名）

委任状：所　正文

事務局：浮谷秀一（事務局長），佐藤恵美（事務局幹事）

I. 報告事項

1. 理事長より

・本日のシンポジウムは，学会始まって以来の盛況であった。

・所編集委員長は本日体調不良により欠席。

2. 各種委員会報告

(1) 機関誌編集委員会（代理：田中委員）

・「応用心理学研究」第35巻第1号を郵送した。第35巻第2号は審査中である。
・「応用心理学研究」第35巻第1号の短報は見開き2ページの体裁になっていなかったので，次号は見開きになるような体裁で印刷してほしいと要望があった。
・投稿者A氏からのデータ使用許可書は，所委員長がもらっている。

(2)　企画委員会（田之内委員長）
・本日の公開シンポジウムには，約300名の参加者があり，大盛況であった。開催に関する記事が信濃毎日新聞（平成21年12月2日付け）に掲載された。

(3)　広報委員会（藤森委員長）
・クロスロード掲載用の原稿を依頼している。
・大会HPと学会HPとをリンクさせる作業を継続中である。
・学会HPに会員からのインフォメーションなどを新しく入れた。

(4)「応用心理士」認定審査委員会（玉井委員長）
・今年度後期の申請者は5日現在6名である。審査料を納入した者がほかにいるので審査対象者は増える見込みである。

(5)　国際交流委員会（内藤委員長）
・ICAPの申込みが延期されたので，HPの記載を修正するとともにメールアドレスがわかる方に大会参加を呼びかけた。

(6)　若手研究者支援委員会（蓮花委員長）
・九州大学での第76回大会においては，ほぼ全員の対象者に支援できた。
・対象者の申請について，遅刻や時間外の申請者が多かったので時間と場所をもっと明確に知らせることが必要と思われる。
・海外の学会活動についても経済的補助を検討したいが，現在の財政状況としては難しい。

(7)　学会活性化プロジェクトチーム
（蓮花チーム長）
・本日午前中に委員会を行った結果，次回3月ぐらいまでに原案を作り，5月ぐらいまでにまとめる予定で作業を進めることになった。ご意見要望があれば，メールでお願いしたい。

3.　2009年度　第76回大会について
（川本大会委員長）
・9月に実施した大会には約300名の参加であった。
・大会の収支決算書に基づいて最終的な大会の報告を行った。
・残金は若手研究者支援へ寄付した。

4.　2010年度　第77回大会について
（田中大会委員長）
・来年度の大会の基本的情報をニュースレターに掲載した。
・大会委員も決定し，長崎純子事務局長（児童デイケア）を決定した。
・大会用のHPも準備中である。大会について要望を受け付け中である。
・応心では，準備委員会→大会委員会，会員総会→総会の用語を使用することが確認された。

II.　審議事項

1.　新広報誌に関する件（藤森委員長）
・応用心理学会の情報発信力を高めていくことと，会員増を果たすという2つの目的で検討していた新広報誌「応用心理学のクロスロード」の発刊を承認した。
・創刊号に予定されている掲載内容について資料を使って説明があった。
・巻頭言（森下理事長に依頼），特集の対談（スポーツと応用心理学とのかかわりでアーチェリーの山本　博先生との対談依頼，今月7日に取材予定），名誉会員による展望（宮本美沙子先生と高嶋正士先生に依頼），若手研究者の紹介，職場での内容などの紹介，クロスロードエッセイ（藤田先生に依頼），海外の情報（荒木穂積先生に依頼），心理学からみた映画の紹介（田中先生に依頼），自著について（大坊先生や蓮花先生などに依頼），応用心理士の資格を持つ人がどのような仕事をしているかを紹介，常任理事会からの通信，入会案内など。
・福村出版との交渉で各号の経費は45万円（印刷代含む）となった。取材費は含まれているが謝礼は含まれていない。
・広告を載せてくれる出版社等を探している。
・発刊の承認や掲載内容について意見のやり取りがあった。

2.　その他

・今後，機関誌編集委員長の体調を考慮して委員会の運営を考えていくこととした。詳細については田中委員が調整して理事長に報告することになった。

※次回常任理事会は，2010 年 2 月に開催する予定である。

日本応用心理学会　2008 年度決算書

（2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

収入			支出		
項目	決算額	予算額	項目	決算額	予算額
会費	5,412,000	5,760,000	第 75 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分（ 75 名）	450,000	480,000	学会賞	60,000	100,000
本年度分*（ 827 名）	4,962,000	5,280,000	心理学諸学会連合会費	60,000	90,000
*学生会員 1 名含む			シンポジウム・講演費謝金	150,000	200,000
			研修会講師謝金	60,000	100,000
賛助会費（過年度分を含む）	50,000	30,000	国際交流費	0	100,000
「応用心理士」関係	160,000	400,000	「応用心理士」関係経費	27,676	200,000
審査料	40,000	100,000			
認定料	120,000	300,000	委員会活動費	559,290	1,050,000
			機関誌編集委員会	349,026	350,000
			企画委員会	172,638	300,000
			広報委員会	0	100,000
			国際交流委員会	0	100,000
機関誌売り上げ	84,000	500,000	若手研究者支援委員会	1,374	50,000
雑収入（著作権使用料等）	91,650	20,000	学会賞選考委員会	36,252	50,000
			倫理委員会	0	100,000
前年度繰越金	3,117,865	2,500,000			
			印刷費	3,284,639	1,800,000
			機関誌	2,867,144	1,500,000
			広報関係	306,721	200,000
			その他	110,774	100,000
			通信費	539,735	650,000
			機関誌郵送費	189,675	200,000
			広報関係郵送費	211,280	200,000
			その他	138,780	250,000
			常任理事交通費	333,840	400,000
			事務局運営費	567,549	700,000
			事務局委託費	935,819	800,000
			役員選挙関係（通信費他含む）	550,350	500,000
			名簿作成積立金	500,000	500,000
			特別企画積立金	0	500,000
			予備費	0	820,000
			次年度繰越金	586,617	0
合計	8,915,515	9,210,000	合計	8,915,515	9,210,000

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2007 年度繰越金	1,500,000
2008 年度積立金	500,000
	2,000,000

2. 特別企画積立金

2007 年度繰越金	4,500,000
2008 年度積立金	0
	4,500,000

3. 若手育成基金

2007 年度繰越金	1,947,378
第 75 回大会から寄付	85,715
2008 年度支援金	−139,000
	1,894,093

以上のとおり相違ありません。

平成 21 年 9 月 10 日　　監事　藤森立男 ㊞

平成 21 年 9 月 10 日　　監事　玉井　寛 ㊞

日本応用心理学会　2009 年度予算案

（2009 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日）

収入				支出		
項目	予算額		前年度予算額	項目	予算額	前年度予算額
会費	5,844,000		5,760,000	第 76 回大会補助費	700,000	700,000
過年度分	528,000	88 名	480,000	学会賞	0	100,000
本年度分	5,316,000	886 名	5,280,000	心理学諸学会連合会費	60,000	90,000
				シンポジウム・講演費謝金	200,000	200,000
				研修会講師謝金	100,000	100,000
賛助会費	40,000		30,000	国際交流費	150,000	100,000
「応用心理士」関係	800,000		400,000	「応用心理士」関係経費	700,000	200,000
審査料	200,000		100,000			
認定料	600,000		300,000	委員会活動費	1,350,000	1,050,000
その他	0			機関誌編集委員会	500,000	350,000
				企画委員会	300,000	300,000
機関誌売り上げ	200,000		500,000	広報委員会	100,000	100,000
雑収入	100,000		20,000	国際交流委員会	100,000	100,000
				若手研究者支援委員会	50,000	50,000
前年度繰越金	2,000,000		2,500,000	学会賞選考委員会	0	50,000
				倫理委員会	100,000	100,000
名簿作成取崩金	500,000			学会活性化プロジェクトチーム活動費	200,000	
特別企画積立金取崩	500,000			印刷費	2,800,000	1,800,000
				機関誌	2,500,000	1,500,000
				広報関係	200,000	200,000
				その他	100,000	100,000
				通信費	650,000	650,000
				機関誌郵送費	200,000	200,000
				広報関係郵送費	200,000	200,000
				その他	250,000	250,000
				常任理事交通費	950,000	400,000
				事務局運営費	300,000	700,000
				事務局委託費	800,000	800,000
				役員選挙関係（通信費他含む）	—	500,000
				名簿作成費	500,000	—
				名簿作成積立金	0	500,000
				特別企画積立金	0	500,000
				予備費	724,000	820,000
				次年度繰越金	0	0
小計	9,984,000		9,210,000	小計	9,984,000	9,210,000

《別途会計》

1. 名簿作成積立金

2008 年度繰越金	2,000,000
2009 年度取崩金	−500,000
	1,500,000

2. 特別企画積立金

2008 年度繰越金	4,500,000
2009 年度取崩金	−500,000
	4,000,000

3. 若手育成基金

2008 年度繰越金	1,894,093
2009 年度支援金	−300,000
	1,594,093

日本応用心理学会第 75 回大会決算書

収入			支出	
摘要		金額	摘要	金額
大会参加費		1,343,500	学会事務委託関係	1,873,066
(内訳) 正会員	(予約 5,000×141)	705,000	(内訳) 印刷費	
正会員	(当日 6,000×41)	246,000	発送費	
院生	(予約 2,000×44)	88,000	受付・庶務業務費	
院生	(当日 3,000×3)	9,000	システム運営費	
非会員	(予約 6,000×25)	150,000		
非会員	(当日 7,000×9)	63,000	講師謝礼	180,000
非会員 (学生)	(予約 3,000×5)	15,000	理事会費	118,545
非会員 (学生)	(当日 3,500×15)	52,500	総会費	224,000
終身会員	(予約 5,000×3)	15,000	昼食費 (2 日目)	153,580
発表費		995,000	看板費	52,500
(内訳) 正会員・名誉	5,000×126	630,000	懇親会費	612,910
院生	3,000×41	123,000	輸送費 (懇親会バス代)	110,250
非会員	10,000×21	210,000	パネルリース費	153,930
非会員学生	8,000×4	32,000	施設費	62,716
自主ワークショップ		16,000	大会事務局事務員謝礼	210,000
(内訳) 正会員	5000×2	10,000	学生協力謝礼	310,000
院生	3000×2	6,000	準備委員会運営費	151,010
論文集代		299,000	消耗品費	151,139
(内訳) 予約	(5,000×25)	125,000	郵送費・手数料	7,593
当日	(6,000×29)	174,000	寄付 (学会・若手研究者支援)	85,715
懇親会費		555,000		
(内訳) 正会員 (予約)	(7,000×28)	196,000		
正会員 (当日)	(8,000×30)	240,000		
院生 (予約)	(3,000×11)	33,000		
院生 (当日)	(4,000×19)	76,000		
同伴者	(5,000×2)	10,000		
研修会費		33,000		
(内訳) 正会員 (予約)	(500×45)	22,500		
正会員 (当日)	(1,000×9)	9,000		
非会員	(1,500×1)	1,500		
広告費		415,000		
学会本部補助		700,000		
理事会本部補助		100,000		
その他 (利息)		454		
合計		4,456,954	合計	4,456,954

以上のとおり，間違いありません。　　平成 21 年 4 月 17 日　　大会委員長　　藤森立男 ㊞